

研究・調査報告書

| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
|---|--------|--------------|
| C-153 | 16-320 | 慶應義塾大学 |
| 題名 (原題/訳) | | |
| Processing of Alcohol-Related Health Threat in At-Risk Drinkers: An Online Study of Gender-Related Self-Affirmation Effects. リスクのある飲用者におけるアルコール関連の健康の脅威の処理:性別に関連する自己肯定効果のオンライン研究。 | | |
| 執筆者 | | |
| Kamboj SK ¹ , Place H ² , Barton JA ² , Linke S ³ , Curran HV ² , Harris PR ⁴ . | | |
| 掲載誌 | | |
| Alcohol Alcohol. 2016 Nov;51(6):756-762. 10.1093/alcalc/agw013 | | |
| キーワード | | PMID: |
| 健康情報、自己肯定、オンラインセッション | | 26993737 |
| 要 旨 | | |
| <p>目的:</p> <p>過剰なアルコール消費に関連する脅すような健康情報に対応する防御反応は、適当な行動への変化を防止する。自己肯定は脅すような情報の認知-情動的処理を改善し、それによって成功した自己規制に寄与する可能性がある。</p> <p>方法:</p> <p>リスクのある大学生飲酒者で、オンラインの自己肯定手続きの効果を調べた。参加者にアルコール関連の脅すような情報の提示前に、自己肯定(個人的に関連した価値について書く)またはコントロールの作業(別の人に関連する価値について書く)を無作為に割付けた。作業後の向社会的感情(例えば『愛』)の評価は、操作の検査として用いられた。アルコール摂取とがんの関連性に関する一般的で個人的な情報が提示され、続いて認められた脅威、メッセージ回避、および逸脱の評価が提示された。ページ滞留時間は、メッセージ関与の間接的指標として役立った。ページ滞留時間は、メッセージ関与の間接的なインデックスとして用いられた。最初のオンライン・セッション時に、そして、1週間後および1ヵ月後にアルコール消費量と飲酒を減らす意欲が追跡調査された。</p> <p>結果:</p> <p>自己肯定が作業の直後の向社会的感情の高次に帰着したにもかかわらず、自己肯定群では行動に対する効果がみられなかった。意図に対する効果は性によって緩和された。男性では自己肯定の直後に低い意図を示したが、1週間の追跡調査で増加した。自己肯定群でアルコール消費を減らす女性の意図は、時間とともに減少した。悪化とメッセージ受理の指標に対する傾向レベルの効果は、男性だけの予測された方向にあった。</p> <p>結論:</p> <p>高リスクの飲酒者とオンライン環境で自己肯定の手順を施行することは可能である。しかし、この集団によるインターネットベースの手順の使用は、研究室ベースの実験と比較して実質的に弱められる(性依存的な)効果を引き起こす可能性がある。</p> | | |